

寺岡 隆先生のご退職にあたって

小 野 浩 一

寺岡隆先生は平成12年3月で定年を迎え、7年間の本学での教員生活を終えようとしている。最初の5年間は社会学科心理学コースの所属、後の2年間は心理学科の所属である。短いようで長かった7年間の思い返すと、先生が駒澤大学における心理学の研究、教育に対してなされた幾多のご貢献とご尽力に対する感謝の気持ちとともに深い惜別の念がこみ上げてくる。

寺岡先生が着任された平成5年からの7年間は心理学研究室にとって大きな変化、発展の時期であった。平成8年に学部カリキュラムを大きく変更し、そして平成10年には社会学科心理学コースから心理学科への衣替えをした。これらの過程の中で、寺岡先生は常に指導的役割を果たされ、適切な判断を示してくださった。いま考えると、もしあのとき寺岡先生がおられなかったらどうなっていたらだろうということが多々ある。心理学科における寺岡先生の存在の重みは、校務や学生の指導に力を注いでくださったということもあるが、それ以上に先生ご自身が現在まで一級の心理学者として現役でありつづけ、教員や学生に研究者としての範を示してくれたことである。

役職としては大学院心理学専攻主任、大学院自己点検委員会全学副委員長を務められ、特に大学院専攻主任としては、駒澤大学の心理学の社会的使命を考慮し、研究・教育レベルの向上に腐心された。寺岡先生の心理学科における仕事でもう一つ特記しておかなければならないことは、初代編集委員長として、「駒澤大学心理学論集」の発刊にご尽力くださったことである。今年の第1号は創刊号であったので、表紙のデザインから紙面構成、レイアウト等細かく根

気のいる諸々の作業が必要であったが、先生は長年の経験と洗練されたセンスを活かして、立派で格調高い紀要を作ってくださいました。

寺岡先生は心理学基礎論を専門とし、重厚な理論を展開している厳格な研究者である。しかし、お人柄はダンディーで遊び心一杯の気さくな先生である。研究室での一仕事が終わると、助手の部屋でコーヒーを飲みながらその場にいる人たちと楽しく歓談し、実に和やかな雰囲気醸し出しておられた。先生の研究室にはクラシック音楽が流れ、「研究室で囲碁はいいけど、将棋は格好悪いんですよ」といいながら将棋大会を開いたり、学生達にコントラクトブリッジを教えたりと先生の周りにはいつも知性と文化と遊びの薫りが漂っていた。

寺岡先生がご退職になることは大変残念なことであるが、先生はまだ十分ご壮健であり、これからもますますご自身の研究を発展させ、そしてご自身の人生を楽しんでいただきたいと願うものである。そして、今後もぜひ駒澤大学のためにお力添えをいただきたくお願いする次第である。